

gendai.ismedia.jp

島耕作はついに「社外取締役」へ…50年以上勤めた会社を去っても、まだまだ働く理由(弘兼 憲史) @gendai_biz

弘兼 憲史



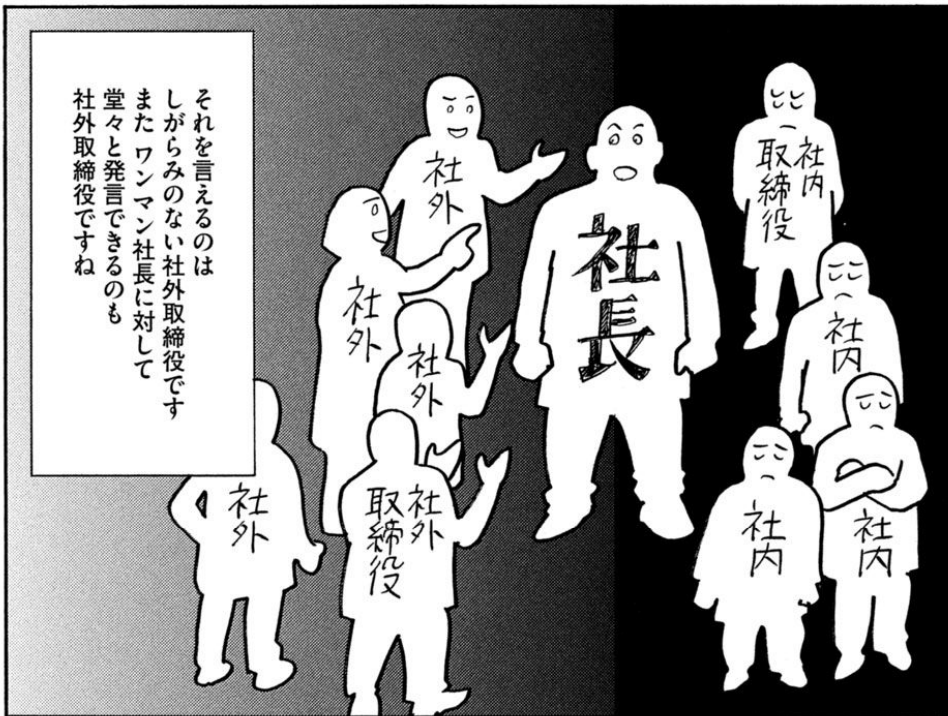
著者・弘兼憲史氏に今後の展開を聞いた

――新シリーズは『社外取締役 島耕作』ですが、社外取締役とは実際にどのようなことをするのでしょうか。

社外取締役はいわば企業の監視役。おもに企業の経営や業務執行が適正に行われているか、客観的な視点でチェックします。取引や資本関係のない社外から迎えるため、社内から昇格した取締役のような利害関係がなく、透明性の高い職務の遂行が期待できる。要するに社長に対しても気兼ねなく“文句”が言えるわけです。

日本は欧米に比べて導入が遅れていましたが、コーポレートガバナンスの重要性が唱えられるようになって、最近はその存在が注目されています。上場企業は選任が義務付けられていて、東証一部では取締役会の3分の1以上を社外取締役にした上場企業が7割以上におよびます。

モーニング



『社外取締役 島耕作』第1話より

――すでに相談役の時に就任したフードデリバリーのベンチャー企業に加え、今回新たに塗建会社の社外取締役になりました。

新しい視点を入れたかったので、あえて今まで関わったことがない、まったく毛色の違う業界にしました。社外取締役になったウエマツ塗建工業は現会長兼社長が一代で築き上げた業界3位のオーナー企業です。ところが、社長が島と同世代の75歳で、後継者の問題が浮上している。

副社長の息子はボンボンでいまいち頼りない。一方で愛人の息子が東大、ハーバード大を経て大手銀行勤務と優秀だが、正妻が許すわけもなく、まずはこのお家騒動をどうおさめていくのかというところですね。

――企業の存続には後継者の資質は重要です。

まさに松下電器産業(現・パナソニック)がそうでした。僕が入社した時の社長は創業者・松下幸之助さんの娘婿で、東大、三井銀行を経て入社した松下正治さん。この方は優秀ではあったものの辣腕とまではいかなくて、三代目は幸之助さんの抜擢を受けて叩き上げの山下俊彦さんが社長に就任しています。

正治さんの息子も入社はしているんですが、社長になることはなかった。松下電器は社の発展に重きをおいたのです。しかし、多くは私情が絡んだり派閥があったりしてそうまくいくものではない。こういった問題も社外取締役であればズバツと切り込めるんですよ。

社外取締役は企業の持続可能な発展と企業価値の向上のために重要な存在です。しかし、いまいち理解されておらず煙たい存在のように思われている節がある。島耕作の活動を通して、社外取締役の役割を多くの人に知ってもらえたら、と思っています。